

## 第2回 地域の国際化シンポジウム

ー 日本企業の国際化における新たな気づき  
ワークショップ(2013年12月19日14:20ー16:30)  
「日本企業がタイで活動を展開していくために」

文部科学省 大学等シーズ・ニーズ創出強化支援事業  
(イノベーション対話促進プログラム)

タイの大学の先生方による話題提供(13:00~14:10)を受けて  
(ワークショップの進行と説明)

福井大学産学官連携本部 竹本 拓治



## [次第(予定)]

13:00 開会の挨拶

**13:05 講演・話題提供(日本企業の姿)「タイの学生から見た日本企業」**

タイ国立Thammasat University Associate Professor Tasanee METHAPISIT氏

**13:25 講演・話題提供(東南アジアの今)「タイ駐在日本人教員から見たタイの特徴」**

タイ国立Thammasat University 東アジア研究所 栗野淳一 客員教授

(福井大学 産学官連携本部 客員教授 兼任)

**13:45 講演・話題提供(企業の海外展開)「タイ人の日本製品に対するイメージ」**

タイ国立Chandrakasem Rajabhat University

ビジネス日本語学科長 Tawat KHAMTHONGTHIP 氏

(14:10 コーヒーブレイク)

**14:20 ワークショップ「日本企業がタイで活動を展開していくには何が必要か」**

『多様な』参加者による意見交換により新たな「気づき」を得る

16:10 テーブル発表

16:25 閉会の挨拶

16:30 閉会

# なぜ今回はワークショップ形式なの？

## ■背景

「これからの産学官連携活動が目指すべき方向性としては、  
大学等に集う人々に創造性を発揮させて

集合知を得ることにより、新たな商品・サービスを生み出し、  
市場を通じてイノベーション創出を拡大させて行くことが必要」

科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会イノベーション対話促進作業  
部会「大学発イノベーションのための対話の促進について(2013年5月20日)





# なぜ今回はワークショップ形式なの？

## ■背景

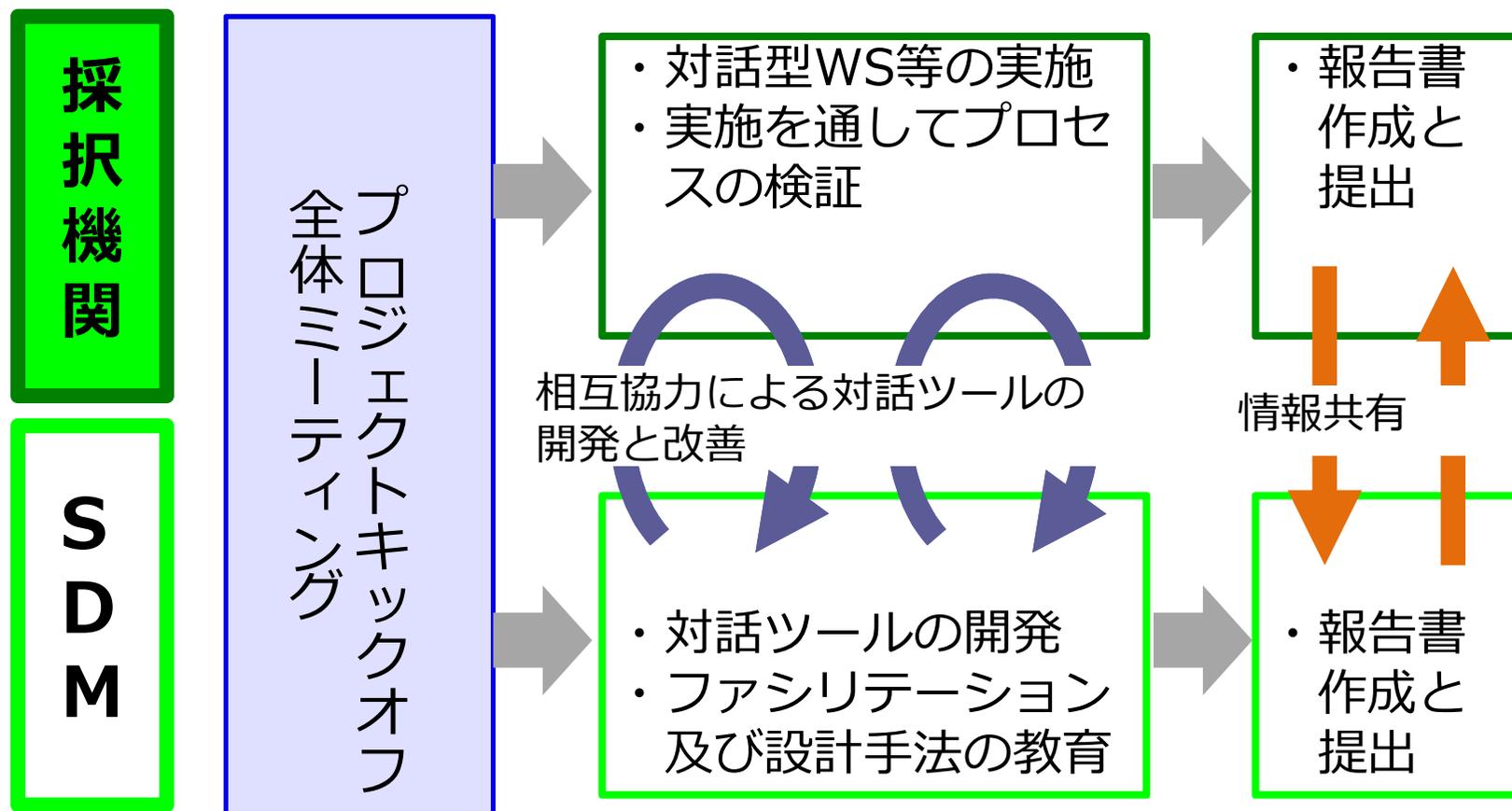
「取組の方向性としては、異なる発想・経験・価値観を持つ多様な知的活動主体が互いに刺激し合い、これまでイメージされていなかった全く新しいシーズ・ニーズの組合せや、アイデア等が発掘されるような「仕掛け」をデザインし、そうしたプロセスを容易に再現できる汎用的なツール(対話ツール)を開発すること、大学等の現場で運用(ワークショップ等を開催)すること等が新たな産学官連携システムの構築に向けて求められている」

科学技術・学術審議会産業連携・地域支援部会イノベーション対話促進作業部会「大学発イノベーションのための対話の促進について(2013年5月20日)

# 福井大学の役割と目的

2013年9月

2014年4月



図：慶応義塾大学大学院SDM研究科作成

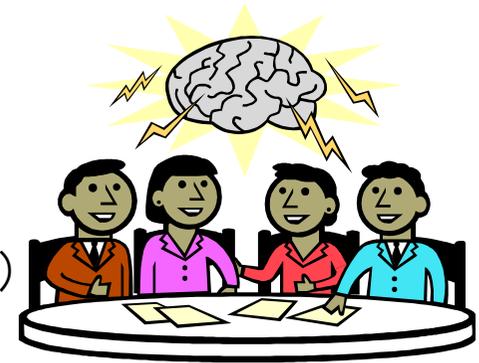
# 取り組みが目指すものは？

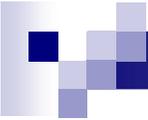
## ■目的

大学等において多様な参加者の知見を活用したデザイン思考の対話型ワークショップ等を運営することなどにより、大学等発のイノベーションを創出する確率を高めることとそのプロセスの検証を行うことを目的とします。

(付随して期待される効果)

- ・ 大学等の産学官連携活動における提案力・企画力の強化
- ・ 大学等や地域との連携協議会等における活動の活性化
- ・ 産学官連携活動や研究開発マネジメントを支える専門人材(産学官連携コーディネーターやリサーチ・アドミニストレーター等)の能力向上
- ・ 大学院生等の産学官連携活動や社会的課題解決活動の推進





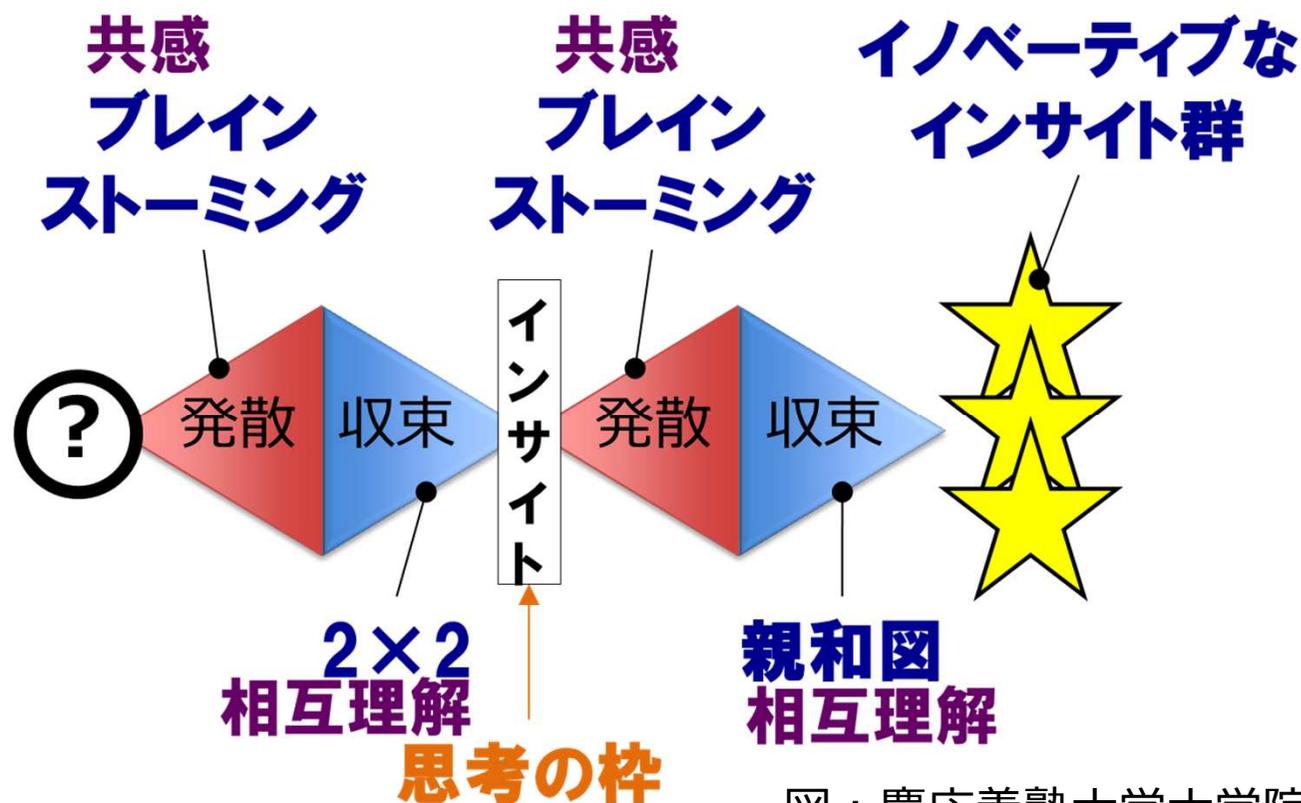
慶応の先生方から

ちょっといいデータを教えてもらったので・・・  
「多様性はイノベーションの価値を高める」そうです！

- “Harvard Business Review, Vol.82, Issue 9, Sep.2004”によると、多様なチームによる成果の一部に高いイノベティブなものが生まれる可能性が指摘されています。
- ただし「多様性が高い場合、高いイノベティブなものは生まれる可能性が生じる反面、パフォーマンスの平均値は均一な集団に劣る」とされています。

# ワークショップの進め方(前回の方法)

- 文部科学省ツール(2013年10月19日ワークショップにて使用)  
「思考の枠の認識から枠外の発想創出へ」

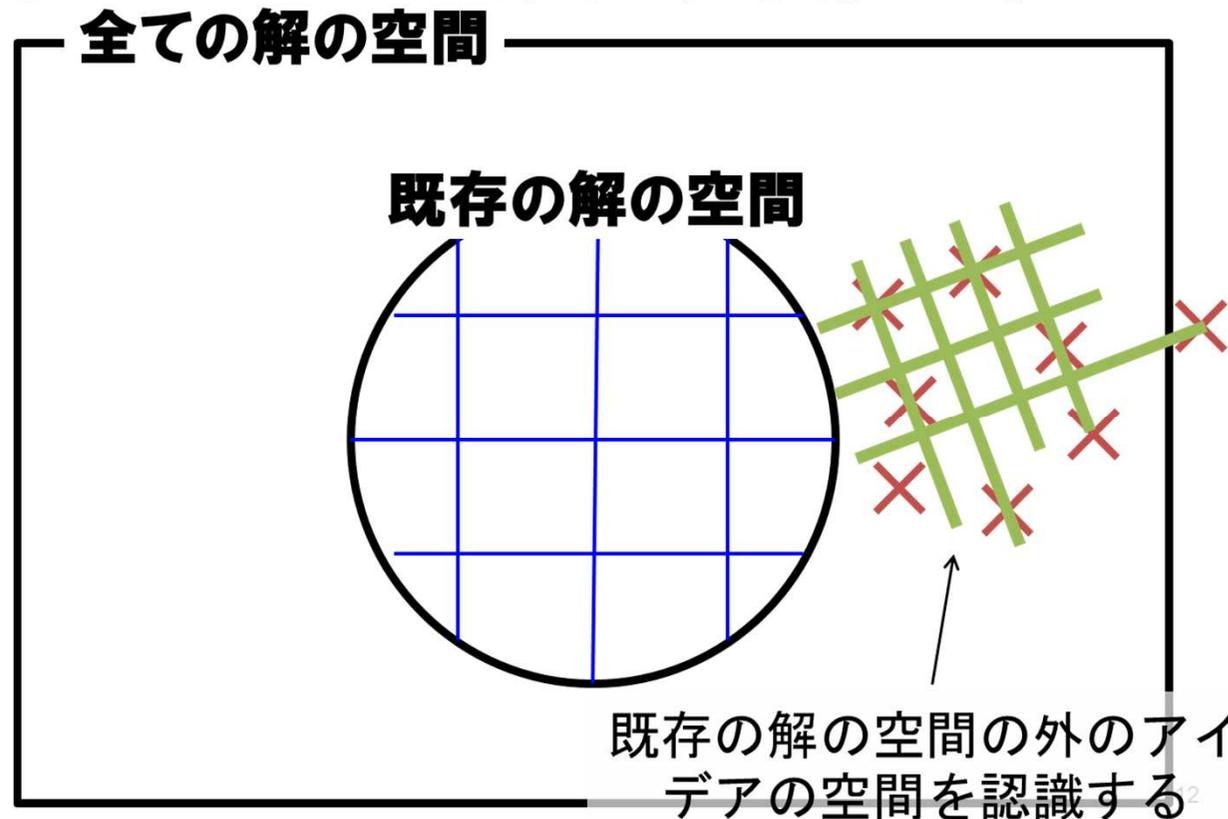


図：慶応義塾大学大学院SDM研究科作成

# ワークショップの進め方(前回の方法)

■ 文部科学省ツール(2013年10月19日ワークショップにて使用)

「思考の枠の認識から枠外の発想創出へ」

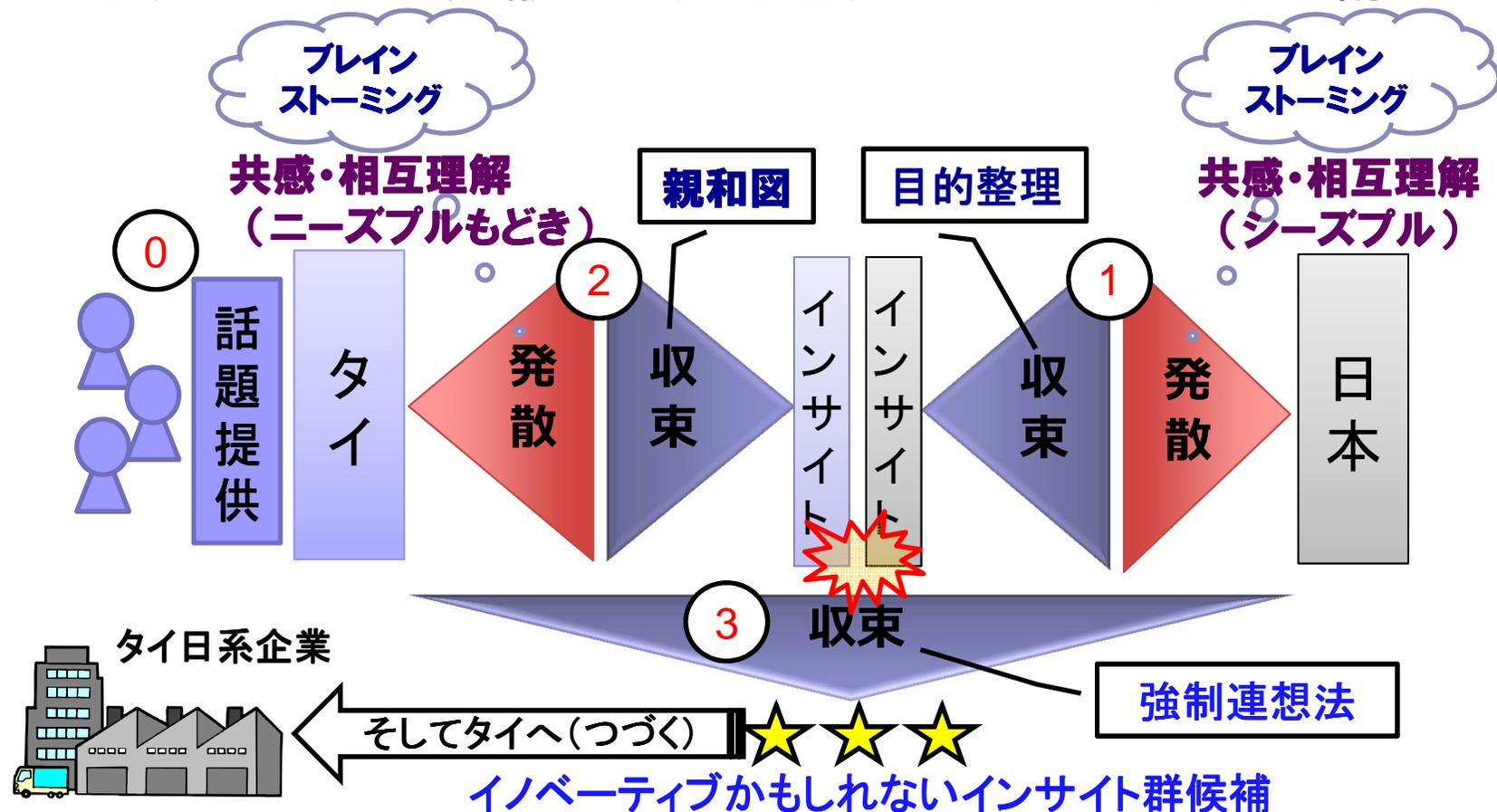


図：慶応義塾大学大学院SDM研究科作成

# ワークショップの進め方(今回の方法)

## ■福井大学国際展開型(試行)

「地域リソースの発散から現地適合化による気づきの創出へ」





# 最初にブレインストーミングについて

■ 以下の4ルールを守ってください！

## ① 批判や判断をしない、結論を出さない

アイデアを出す段階では、他人の意見を批判や判断をせず、もし意見があれば「こう考えればどうだろう」というように可能性を広げる方向を心がける。

## ② 遠慮せず自由に発言する

恥ずかしがらずに、思いついたらとにかく口に出すか書くことが大切である。突飛な考えやユニークなもの、今までにない新しいアイデアをどんどん出していく。

## ③ とにかく量を出す

①と②を守ると、自然に多くのアイデアが生まれる。アイデアが出なくなったら別の角度や、反対の視点から見るなど、工夫する。

## ④ 便乗、誘発と結合

他人のアイデアから連想することや、他人のアイデアを少し変えることや、加えることで新たなアイデアがまた一つ生まれる。

# では、はじめましょう！

# 2月ワークショップ in Thailandの予告

## ■福井大学国際展開型(試行)

「地域リソースの発散から現地適合化による気づきの創出へ」

